

新年を迎えて

藤崎町老人クラブ連合会

会長 館山 新一



明けましておめでとう... 藤崎町老人クラブ連合会

感染症の拡大により、私たちの暮らしはもとより、老人クラブ活動も大きな影響を受けております。

昨年11月に全国老人クラブ連合会創立60周年記念・全国老人クラブ大会に参加してきました。

「いきがいづくり」「地域づくり」を目指し、すべての世代が輝ける地域共生社会を築き上げていくために、私たち高齢者・老人クラブも、その一翼を担っていかねばならないと思います。

発行 藤崎町老人クラブ連合会 広報委員会 藤崎老人福祉センター内 電話 七五―三三三二



第10回藤崎秋まつり

町老連が昔の遊びコーナー運営

令和4年11月19日(土)・20日(日)、会場スポーツプラザ藤崎他で3年ぶりに「リンゴとお米の収穫感謝祭」が開催された。

オープニングセレモニー 開会に先立って、先日全国大会の出場を決めた常盤小学校スクールバンド部の演奏が披露された。

町長挨拶 天候が心配されましたが秋まつりのため、お天道様も応援しているみたいです。

◆開会宣言 藤崎小学校・藤崎中央小学校・常盤小学校の三校による「お祭りみこし」祭りだ！祭りだ！ワッショイ・ワッショイで祭りがスタートした。

◆老人クラブ活動 町老連がイベント館(スポーツプラザ藤崎)で遊び広場の一角の昔の遊びコーナーで役員・若手委員・女性部員が2日間とも20人ずつ(40人)が「ずぐり・けん玉・お手玉・おはじき・あやとり」を子供たちに指導し、共に楽しんでいました。

◆遊びの体験 コーナーには、祭り2日間を通して常時20人位の親子・友人同士・兄弟姉妹など、来る人来る人が、昔の遊具を自由に手に取り楽しそうに遊んでいた。

◆ずぐりまわしの場面 見ている間に「ずぐり回し」がどんどん上手になった子どもにマイクを向けると、「最初は出来なかつたものが、教えられた投げ方をするとよくまわって嬉しいです」と話していた。



開会式で常盤小学校スクールバンド部が演奏



「昔の遊び」を老人クラブ会員と子供との世代間交流

町老連理事会 開催のお知らせ

例年1月に開催してきた「新年研修会」は新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年同様「理事会」として開催します。

- 一、日時 1月27日(金) 10時〜12時
二、場所 藤崎町文化センター3階多目的ホール
三、日程 (1)受付 9時30分〜10時 (2)開会 10時〜10時10分 (3)県老連会長表彰状伝達式 10時10分〜10時30分

来賓 県老連常務理事・事務局長 五戸 秀樹氏

※理事とは、単位老人クラブ会長・各専門部長・女性部長・各委員会委員長・本部役員 ※出席者は、申込書に記入の上、1月15日(日)までに藤崎・常盤老人福祉センター窓口まで提出をお願いします。申込書、単位クラブ会長宛は【白寿】1月号に同封します。 専門部は、御足労お掛けしますが、藤崎・常盤老人福祉センター窓口で受領し、申込をお願いします。 ※欠席の場合は必ず代理の方の出席をお願いします。

◎被表彰者

- ◎優良老人クラブ 矢沢長寿会 (清野草名義会長) 館川シニア倶楽部(木村トモ子会長) 常盤養命会 (三上一会長)

◎個人功労

- 木村美智子(町老連副会長) 神 昭子 (町老連副会長) 佐々木了子(町老連監事) 竹嶋 逞子(町老連監事) 田澤 順子(曲新田健老会長) 坂岡 明 (榊壮寿会第2会長) 相坂ナツエ(白子高砂会長) 白戸 治 (東町シニアクラブ会長)

◎特別感謝

- 館山 新一(県老連監事・町老連会長) (4)式典映像 観賞 10時30分〜11時 全国老人クラブ創立60周年記念・全国老人クラブ大会ダイジェスト (5)講話 11時〜11時50分 演題「これからをどう生きるか」 講師 ときわ会病院 永山隆造先生

四、閉会 11時50分

※理事とは、単位老人クラブ会長・各専門部長・女性部長・各委員会委員長・本部役員

※出席者は、申込書に記入の上、1月15日(日)までに藤崎・常盤老人福祉センター窓口まで提出をお願いします。申込書、単位クラブ会長宛は【白寿】1月号に同封します。

Table with 4 columns: 日 (Day), 曜 (Day of Week), 行事 (Event), 時刻 (Time). It lists events for January, including New Year's Day, Adult's Day, and various club activities.

先輩に学ぶ (31)
 旧藤崎町老連文集「白寿」から
 第三号 昭和59年度 (18)

婦人部会に

参加して
 館川 加藤ハツエ

藤崎町の老人クラブ連合会に婦人部が新設されたのは、昭和五十八年八月でした。私もその頃から婦人部の仲間入りをし、活動に参加させて頂きました。まだ日が浅いので深い内容はわかりませんが、お誘いがあり、青森県老人クラブ連合会婦人幹部研修会に出席させて頂きました。昭和五十九年度、藤崎町では五月九日早々に第一回目の婦人部総会を開催し、一年間の計画を検討し、六月から実施に取り組みました。内容は下表の通りです。

月	行事予定
五月	総会
六月	六月に真夏の作り方健康講座
七月	健康講座
九月	老人ホーム慰問
十月	漬物
十一月	真夏の粕漬け
十二月	子ども達との交流
一月	改良汁
二月	糰子の作り方
三月	健康講座

七月二十四日、中南部老人クラブ連合会婦人幹部研修会があり、婦人部の葛西部長さんと二人で出席することが出来ました。

私が、藤崎町のいろいろなサークル活動の内容について発表しましたが、最後に助言と総評と一言うことで中南部地方福祉事務所の西谷所長さんから、「藤崎町を訪問したところ、いろいろなサークル活動が実にうまく行われている」ということでお褒めの言葉があり、自信を深めました。

また、十一月七日には、青森県老人クラブ連合会婦人幹部研修会に前年と同様に出席しました。私は三つの分科会の中、「老人クラブの活動と婦人部員の役割」の分科会に入りました。そこで、鶴田町老人クラブ連合会の発表があり、私たちの計画とそれ程変わらない発表がありました。ただその中で、会員一人五百円ずつ出して、「桂須磨子劇団」を招いて演劇と歌謡の一日を楽しく過ごしたという話題があり、藤崎町では考えたことのない内容でしたので多

少興味をそられました。

藤崎町では「婦人集会」という名前で月二回くらいの会合を持ち、その中で各種の行事を行っています。毎月ですのなるべく多くの方からアイデアを出して頂き、実りの多い集会にしていきたいものです。

多くの集会や行事に参加し、老後の生きがい高めるとともに健康で心豊かな生活を目指し、明るい家庭を築くようお互い誘いあつて楽しく過ごしていこうではありませんか。

常盤ひとり旅

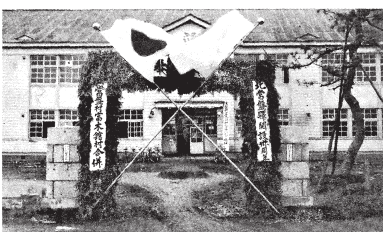
石澤清五郎

○連載にあたって

この「常盤ひとり旅」は、常盤村農業協同組合からの依頼により、石澤清五郎氏が執筆された旧常盤村の紀行文です。平成4年7月から機関紙「広報JAときわ村」にシリーズで掲載されたもので、常盤地区(町内)の昔を知る貴重な資料です。

今回、家族の了解を得ましたので藤崎町老人クラブ連合会機関紙【白寿】に連載することにしました。

昭和二十九年五月三日、旧常盤村と富木館村が合併し、新常盤村が誕生した。いわゆる昭和の大合併で、県内の合併第1号である。元々両村は産業や文化・教育も交流があり、紆余曲折はあったが、合併にこぎつけた。



合併祝賀会会場となった富木館村・常盤村組合立明徳中学校

はじめに

平成4年7月

自分の愛してやまない生まれ育った常盤村だが、落ち着いてじっくり見聞することはなかった。

今回、本誌編集氏から紀行文を執筆していただきたいとの依頼により天気は誘われ、矢立を腰に一巡することができ、その行状記を順を追って筆を取ることになった。題して「常盤ひとり旅」。

ところで、ときわと称する市町村は全国にいくつ有るのだろうと玄関を出る時「日本地名辞典」を開

いて見たら次のような数となった。

常葉町(福島県田村郡) 常盤村(千葉県香取郡、福井県丹生郡、愛知県額田郡、香川県三豊郡)そして私達の住む常盤村の同字は(北海道川上郡、秋田県山本郡、山形県上山村郡、栃木県安蘇郡、長野県下水内郡、滋賀県栗田郡、岡山県都窪郡、青森県南津軽郡)と十三町村があった。

ところが、昭和二十八年十月一日「町村合併促進法」の公布により、つぎつぎと消え去り、今では私達のふるさと青森県南津軽郡常盤村ただ一つだけ生き残ったのである。

さて、常盤とはどう言う意味を持っているだろうと今度は「日本国語大辞典」を繰りかえり見てみると書いてあったが略記すると「こいわの変化した語、常に変わらない岩、転じて永久に続くこと、またそのさま、とこしえ、反面、洒落本(穴可至子)に『そんな常盤な咄をせずとたばこでも呑みね』あてのないうこと、めやすのないこと、またそのさまにも使われている」。また孫の国語辞典には「永久に変わらないこと、一年中葉の色が変わらないこと、また一年中緑の葉をつけている常緑樹を常盤木と言う。」とあった。最後にもう一つ念を入れて、昭和二十九年三月十九日付で常盤村長古川三雄、富木館村長神種吉の連名で青森県知事津島文治に提出された村合併申請書に添付された新村名選定の理由書には「古くからこの地区を常盤地方と称し、経済文化の中心地としてその名声が高かった。又、常盤とは「永久に栄える」とも解されており、両村がこの合併を記念して永久にお互いに助けあつて栄えるようにとの意から右のような村名と決定したものである。」と記されていた。

◆ 歯なしの話 130 ◆

昆虫食について

佐藤 透

以前【白寿】に昆虫を食べることについて(主に長野県?)書いたことがあったと思う。

最近、昆虫食がなかなか賑やかになってきているようだ。多分、タンパク質を摂取することが難しい人々や国の存在があるからなのかもしれない。

今日、インターネットで調べた一部を列記すると
 ①冷凍 スズメバチ・コオロギ・オケラ・カイコ・ゲン

ゴロウ・バツタ・アリ・サソリ・セミ・コガネムシ等

②パウダー(粉末)

③加工食品 素揚げ・乾燥・激辛・スイーツ

④自販機

そして

A 国際連合食料農業機関(F.A.O.)は二〇一三年に食品及び飼料における昆虫類の役割に注目。

B 二〇五〇年、世界人口は百億人に迫るので、昆虫が食糧になりうる。

C 全世界で人々は一九〇〇種以上の昆虫を食している。

D 多いものは、甲虫・イモ虫・ハチ・バツタなど。タンパク質・カルシウム・ミネラル・キチン質・多価不飽和脂肪酸等々が含まれる。

E アレルギー・病気などに注意が必要。

F 家畜飼料・水産飼料・ペットフードの可能性もある。

などのコメントがあるのだが、皆様はどのような感想をお持ちですか?

今後は何かしらの形で取り入れられる可能性はありそうだが、実際私は今までにバツタや蜂の子など食していた経験があるので、余りにもすごい?のなければ私は摂取できるかもしれない。人によっては抵抗を感じる方たちもいるものと思うが、今のところはそれで良いのではないかと考える。しかし、一部の国では絶対的な食料不足に対しては、そうもいかないのではないだろうか。

俳句

雪国を発ちて香港初仕事

鳴海 艸人

夫のむく実のつややかや茶碗蒸し

木村美智子

香満つる寒丸の水の写経終へ

海野比呂子

コロナ禍を流しすつきり初手水

清水稼志男